

1. 第3次総合計画における施策の体系									
目指す都市像 (政策)	番号	2	名称	福祉と健康づくりで明るいまち					
施策	番号	6	名称	高齢者の生きがい対策の推進					
主担当部	福祉部		主担当課	福祉総務課		部長名	福井 和夫		
関係部	健康部		関係課	健康増進課・老人福祉センター					
2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)									
この施策の目的	高齢者が、生涯学習・老人クラブの活動等に参加しやすい環境を作るとともに、そこで学習した成果を発展させる場所・機会の充実を図ります。元気な高齢者が、ボランティア活動等に生きがいを持てるような環境を作ること、高齢者の社会参加を促進します。								
3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)									
この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について			社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について					
	豊富な経験・知識を持つ元気で活動できる高齢者が増加しています。このようなシニア世代のエネルギーを社会貢献につなげることができるような地域活動・文化活動の場となる様々な講座及び各地域における学習活動への支援、成果を発表できる場が求められています。高齢者が生きがいを実感しながら生活の充実・向上につながるよりよい仕組みづくりを進めます。			県においては、高齢者の生きがい活動を支援するための社会参加活動に関する啓発、社会活動振興のための支援、さらに高齢者が気軽に生きがいをもって活動できる環境づくりを行っており、市と協力して施策を推進する関係にある。					
これまでの成果	千寿荘、やわらぎの郷において、各種教養講座を開設してきており、各施設を発表会及び展示会等多様な学習の場として活用し、高齢者が生きがいを実感しながら生活を充実・向上させることにつなげている。								
4. 指標及びコストの推移									
	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	教養講座事業受講者数	539	518	525	520	520	520	
	施策指標② (成果指標)	老人クラブ加入者数	4,653	4,500	4,164	4,500	4,560	4,620	
	施策指標③ (成果指標)	高齢者大学校受講者数	253	240	232	240	240	240	
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	見込み	
	歳出 (直接事業費)(a)		91,105	142,082	136,074	161,372	161,454		
	歳入 (b)	受益者負担額	3,095	4,241	2,761	715	715		
		国や県からの補助金その他	2,601	2,350	1,694	2,127	1,812		
	(a) - (b) = 一般財源		85,409	135,491	131,619	158,530	158,927		
	正職員	従事者数 (単位:人)	10.15	10.95	11.95	7.49	7.49		
		人件費(c)	63,580	67,923	74,126	46,460	46,460		
トータルコスト (a) + (c)		154,685	210,005	210,200	207,832	207,914			

5. 施策の評価						
有効性の評価	この施策の成果の達成度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性かどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	高齢者の生きがい対策として、生きがいづくりや文化活動の場の提供に関しては、利用者も増加しており、効果を上げている。老人クラブ活動の支援に関しては、高齢者が増加しているにも関わらず、加入者が増えない状況にあり、活性化を講じなければならない。				
	市政全般に対する貢献度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	高齢者が生きがいをもって生活することは、心身の健康を保持するためにも重要なことであり、その意味で高齢者福祉の増進のため大きな貢献をしている。				
6. 施策の課題						
この施策の課題	高齢者の生きがい対策事業のうち、高齢者生きがい事業は、老人クラブの加入者が対象者の増加にもかかわらず、減少しており、活性化を講じることが課題となっている。また、敬老事業は年々対象者が増加し、現在の方法では将来的に実施が困難になることが予想されるため、根本的に実施方法を見直すことが課題となっている。福祉センター及び老人福祉センターの管理運営事業については、施設の老朽化に対して、計画的に改修等を実施することが課題となっている。					
7. 次年度以降の施策の方向性						
総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明	高齢社会の進展に伴い、本施策の重要性は益々増大する。				
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明					
8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）						
1次評価	説明	老人福祉センター管理運営事業については、利用者のニーズに沿うような運営に配慮しながら継続していく。福祉センター管理運営事業については、平成25年4月1日より、指定管理者が市の代行として業務運営を行っており、民間手法によるキメ細かな更なる市民サービスが期待される。教養講座事業及び生きがい対策事業については、今後益々増大する高齢者の生きがいづくりの一助となるよう、利用者のニーズを勘案した見直しを図りながら継続する。また、高齢者生きがい対策事業については、老人クラブの活性化を検討しながら継続する。				
2次評価	説明					

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。  
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。  
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。  
(優先度が高い順に A、B、C、D)

(ソフト事業、内部管理・維持管理事業)

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
						貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
福祉総務課	○	ソフト 義務	①市内75歳以上の高齢者を対象に9月下旬に敬老会を実施し、10月には結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚祝賀会を開催 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る	12,555	2	b	見直しながらかつ続ける	A
敬老事業		内部管理・維持管理						
福祉総務課	○	ソフト 義務	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。	8,220	2	b	見直しながらかつ続ける	B
高齢者生きがい事業		内部管理・維持管理						
健康増進課	○	ソフト 義務	広報による募集で参加者を募り、講師を招いて、書道・コーラス・陶芸・日本画等の教室を開講する。	820	2	b	見直しながらかつ続ける	D
教養講座事業		内部管理・維持管理						
健康増進課	○	ソフト 義務	ジェットバス・露天風呂・ジャグジー・ミストサウナ等を備えた温浴施設やカラオケのできる舞台を備えた大広間、食堂サロン、茶室を備えた和室、更に卓球・ビリヤードのできる多目的室、囲碁・将棋等を楽しめる娯楽室等を設置し、市民に福祉及び健康増進の場を提供している。(また、平成25年4月1日より、指定管理者が市の代行として業務運営を行なっており、民間手法によるキメ細かな更なる市民サービスが期待される。)	77,317	2	b	見直しながらかつ続ける	
福祉センター管理運営事業		内部管理・維持管理						
老人福祉センター	○	ソフト 義務	市内に居住する60歳以上を対象に書道・陶芸・手芸・花卉園芸・盆栽・川柳・俳句・日本画など8教室による教養講座の開催とその成果発表を兼ねた作品展の開催により充実を図る。	2,939	2	c	縮小する	C
老人生きがい対策事業		内部管理・維持管理						

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類 (転記)		事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
						貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
老人福祉センター		ソフト 義務	後退機能の回復を高める為の温浴設備(大浴場)と磁気機器の設置。又、二階大広間ではカラオケ設備の設置、娯楽ホールでは囲碁・将棋などの娯楽器具を取り揃える事によりレクリエーションの充実を図っている。	34,223	2	b	見直しなが ら続ける	B
老人福祉センター管理 運営事業	○	ソフト 任意						
		内部管理・維 持管理						

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月10日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業		
事務事業名	敬老事業							
担当課名	福祉総務課			課長名	豊島和代			
総合計画の位置付け	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち					
	施策	6	高齢者の生きがい対策の推進					
予算事業名	03 01 04 民生費/社会福祉費/老人福祉費/老人生きがい対策事業費							
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度	
対象	市内在住75歳以上高齢者・結婚50年夫婦						事業の内容説明 ①市内75歳以上の高齢者を対象に9月下旬に敬老会を実施し、10月には結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚祝賀会を開催 ②節目を迎える高齢者に記念品を贈る	
事業の目的	高齢者自らが住み慣れた地域社会の中で健康で、安心して生きがいをもって暮らすことができるよう、高齢者の長寿を祝う行事や金婚祝賀会等を実施する。							
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業				
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業				
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業				
	説明	市制発足当時から続けている市の敬老事業であり、敬老のお祝い行事であることから公共性が高いが、高齢者が増加する一方であるため、開催のありかたについて検討を行っている。						
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない		
			説明	敬老会の開催規模には差があるが、開催されている市町村が多いため、高齢者事業の比較対象にはなる。				
指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	敬老会参加者率		19.68	20	20.4	21	22	25
活動指標①	敬老会参加者		2,421	2,720	2,644	2,869	3,138	4,025
活動指標②								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)		12,490	13,837	12,555	13,529	13,529	
	歳入(b)	受益者負担額						
		国県補助金等その他						
	(a) - (b) = 一般財源		12,490	13,837	12,555	13,529	13,529	
	正職員	従事者数(単位:人)	1.25	1.25	1.25	1.25	1.25	
		人件費(c)	7,830	7,754	7,754	7,754	7,754	
	トータルコスト(a)+(c)		20,320	21,591	20,309	21,283	21,283	
単位当たりコスト	計算式等							
備考(これまでの実績等)								

PLAN  
計画

DO  
実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	市の行事として、認知度は高い。							
	効率性評価 経費削減は可能か	上位施策 への貢献 度はどう か	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	敬老会は毎年9月の行事として高齢者に認知はされており、楽しみにしている方が多い。また金婚祝賀会については毎年年度当初から多数の問い合わせがある。							
ACTION	具体的にどうする ことにより(手段)	高齢者が増加する一方であり、この状態が続けば開催場所に入りきらず消防法にも抵触するおそれがある。2日開催等の案もあるが、予算は拡大の一方である。敬老会を続行するなら、開催時間等変更による半日開催や送迎のあり方についての検討を行い、その結果の参加人数を把握をする必要がある。								
	どんなことが期待 できるか(効果)	また、健康寿命を延ばすために高齢者の生きがい活動発表の場などの提供等により、芸能委託料の削減を行うことは可能。								
修正 行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	B			
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する	敬老関連事業を完全になくすことは難しいが、事業内容・開催内容の改善等は可能である。					

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月10日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	高齢者生きがい事業								
担当課名	福祉総務課				課長名	豊島和代			
総合計画の位置付け	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
	施策	6	高齢者の生きがい対策の推進						
予算事業名	03 01 04 民生費/社会福祉費/老人福祉費/老人生きがい対策事業費・高齢福祉事業費								
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成		年度		
対象	市老人クラブ連合会・生きがい活動団体等			事業の内容説明	①市老連・単位老人クラブ補助金交付 高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。 ②シルバーネットワーク補助金交付 明るく住みよい長寿社会を実現するためのネットワーク事業に対して援助。 ③音楽療法研究会補助金交付 高齢者の心身の安定や意欲の向上などを図るため、会の活動を援助。				
事業の目的	地域で暮らす高齢者が生きがいをもって暮らせ、明るく活気に満ちた地域社会の実現のため、各高齢者活動団体等へ向けて助成を実施。								
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	高齢者の生きがい活動の充実や地域高齢者の活動助成ため。							
やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない				
		説明	補助金事業のため、助成団体の運営や活動規模の縮小につながる。						
指標の推移	名称及び単位等			23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	市老人クラブ加盟団体数			74	75	71	75	76	77
活動指標①	老人クラブ加入者数			4,329	4,500	4,164	4,500	4,560	4,620
活動指標②									
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)			7,370	8,857	8,220	8,848	8,848	
	歳入(b)	受益者負担額							
		国県補助金等その他			1,907	2,287	1,476	1,907	1,592
	(a) - (b) = 一般財源			5,463	6,570	6,744	6,941	7,256	
	正職員	従事者数(単位:人)			0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
		人件費(c)			3,132	3,102	3,102	3,102	3,102
	トータルコスト(a)+(c)			10,502	11,959	11,322	11,950	11,950	
単位当たりコスト	計算式等								
備考(これまでの実績等)									

PLAN 計画

DO 実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	老人クラブ加盟数及び加入者数ともに減少傾向にあるが、高齢者の老人クラブ加入は、高齢者が生きがいをもち、地域社会への活力となっている。音楽療法等の活動は介護予防として、効果を発揮している。						
	上位施策への貢献度 はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	活動をしている団体は地域に根ざしているところが多く、地域と行政のパイプ役として機能している。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	数年前の補助金の一律カットにより、削減は難しい。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	補助金額を見直すことが改善策である。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	C		
		4 廃止又は休止する	5 完了する						
	説明	補助対象が減少すれば事務事業が少なくなる。							



平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年 6月 1日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業	
事務事業名	教養講座事業						
担当課名	健康増進課				課長名	吉田 雄一	
総合計画の位置付け	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち				
	施策	6	高齢者の生きがい対策の推進				
予算事業名	福祉センター管理運営事業						
事業の開始年度	平成	13	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度
対象	市内在住の方			事業の内容説明	広報による募集で参加者を募り、講師を招いて、書道・コーラス・陶芸・日本画等の教室を開講する。		
事業の目的	生きがい対策の推進を図り、健康で明るい生活を営めるようにする福祉増進を目的とする。						
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業			
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業			
3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業						
	説明	市内在住の方に対し、生きがい対策事業として教養の向上のための便宜を供与している。					
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない	
			説明	生きがいとして教養や趣味の向上を図る機会がなくなり、健康で明るい生きがいを得ていただくのが困難となる。			
指標の推移	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	教室申込率	1.08	1.02	1.14	1.15	1.03	1.03
活動指標①	教室申込者数	179	168	181	170	170	170
活動指標②							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出(直接事業費)(a)		796	820	820		
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		796	820	820		
	正職員	従事者数(単位:人)	0.10	0.10	0.10	0.08	0.08
		人件費(c)	626	620	620	496	496
	トータルコスト(a)+(c)		1,422	1,440	1,440	496	496
単位当たりコスト	計算式等						
備考(これまでの実績等)							

PLAN  
計画

DO  
実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	申込率(申込者数/募集定員)は、上がってきている。						
	上位施策 への貢献 度はどう か	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	教養や趣味の向上を図る機会を作っており、高齢者の方の日々の生きがいにつながり、施策の推進に貢献する。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	この施策にかかるコストは、依頼している講師の報酬費のみで、これ以上削減する余地はない。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	コーラスや書道教室は、参加希望者も多く充実しているが、その他の教室の希望者が比較的少ない状況にあり、従来の「広報かしはら」での募集はもとより、平成25年4月より指定管理者が営業を実施しており、民間の方法も考慮に入れて、参加者の増加を図る。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	D		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する	今後増える高齢者に対し、参加者のニーズにあった新たな事業展開を行い、福祉の増進に努め、PR活動により各教室の新規参加者の増加を図る。平成25年4月、指定管理者制度の導入により、民間の手法による様々な方法で、入館者増加を図って行く。				

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年 6月 1日)

ソフト事業(義務)		ソフト事業(任意)		○ 内部管理・維持管理事業			
事務事業名	福祉センター管理運営事業						
担当課名	健康増進課			課長名	吉田 雄一		
総合計画の位置付け	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち				
	施策	6	高齢者の生きがい対策の推進				
予算事業名	福祉センター管理運営事業						
事業の開始年度	平成	8	年度	事業の終了予定年度	平成 — 年度		
対象	来館者		事業の内容説明	ジェットバス・露天風呂・ジャグジー・ミストサウナ等を備えた温浴施設やカラオケのできる舞台を備えた大広間、食堂サロン、茶室を備えた和室、更に卓球・ビリヤードのできる多目的室、囲碁・将棋等を楽しめる娯楽室等を設置し、市民に福祉及び健康増進の場を提供している。(また、平成25年4月1日より、指定管理者が市の代行として業務運営を行っており、民間手法によるキメ細かな更なる市民サービスが期待される。)			
事業の目的	市民にレクリエーションと多世代間のふれあいの場を提供し、健康と生きがいづくりに取り組んでもらう福祉施設としての管理運営を目的とする。						
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業			
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業			
この事業を行うことは妥当か	やめた場合の影響は	2	3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業			
			説明	心と体の健康づくりに取り組み、世代を超えたふれあいを通して健やかに暮らすための便宜を総合的に供与している。			
この事業を行うことは妥当か	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない	
			説明	市民のレクリエーションの場が無くなることにより、市民の特に高齢者の活動する場が無くなり、「健康づくりや生きがい」の場を無くすことになる。			
指標の推移	名称及び単位等	23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
		実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	利用者数(人)	132,728	135,382	132,688	134,014	135,354	139,454
活動指標①	浴場利用者数(人)	124,991	127,490	126,649	127,915	129,194	133,106
活動指標②							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
	歳出(直接事業費)(a)		28,219	80,006	77,317	98,900	98,900
	歳入(b)	受益者負担額	3,095	4,241	2,761	715	715
		国県補助金等その他					
	(a) - (b) = 一般財源		25,124	75,765	74,556	98,185	98,185
	正職員	従事者数(単位:人)	4.30	4.30	4.30	0.46	0.46
		人件費(c)	26,935	26,673	26,673	2,853	2,853
	トータルコスト(a)+(c)		55,154	106,679	103,990	101,753	101,753
単位当たりコスト	計算式等						
備考(これまでの実績等)							

CHECK	有効性評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	「健康の増進・教養の向上」を目的とする高齢者が増加し、「生きがいと楽しみ」を与えている。利用者も増加傾向にある。						
	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	「福祉と健康づくり」につながり、市民の「レクリエーション・多世代間のふれあいの場」となっている。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	平成25年4月1日からの指定管理者導入によるコスト削減が期待される。(人件費の削減等)						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	施設の管理等については、設備の老朽化の進行により、機能維持の整備計画を策定し、こまめに整備することにより維持費を節減し、指定管理者制度の導入により民間の手法を取り入れて、来館者のニーズをよりの確に察知して施設の充実を図り、来館者の関心を高めることにより、更なる「生きがいづくり・福祉」の推進が図れる。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	-		
		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する		今後も増え続ける高齢者に更なる健康増進を図ってもらうための施設の充実と指定管理者の導入による民間手法のサービスを促進し利用者の満足度を上げ、利用者の増加を図る。			

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月6日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	老人生きがい対策事業								
担当課名	老人福祉センター				課長名	森本 良弘			
総合計画の位置付け	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
	施策	6	高齢者の生きがい対策の推進						
予算事業名	老人生きがい対策事業								
事業の開始年度	昭和	54	年度	事業の終了予定年度	平成	27	年度		
対象	市内に居住する60歳以上の人								
事業の目的	市内に居住する老人の趣味等文化活動の参加機会の提供及び活動の振興並びにこれらの活動を通じて地域住民との交流促進を図り、老人の潤いのある生活と生きがいを高めるとともに世代間の理解を深め老人福祉の増進を図る。			事業の内容説明	市内に居住する60歳以上を対象に書道・陶芸・手芸・花卉園芸・盆栽・川柳・俳句・日本画など8教室による教養講座の開催とその成果発表を兼ねた作品展の開催により充実を図る。				
この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	市内に在住する老人の趣味等文化活動の参加機会の提供及び活動の振興並びにこれらの活動を通じて地域住民との交流促進を図り、老人の潤いある生活と生きがいを高めるとともに世代間の理解を深め老人福祉の増進を図っている。							
この事業を行うことは妥当か	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない			
			説明	市内公共施設において無料の高齢者のレクリエーション施設が無くなり、健康で明るい生きがいを持ち教養を高める機会が減少する。					
指標の推移	名称及び単位等			23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	教室受講者数			360	350	344	350	350	350
活動指標①	新規教室募集者数			68	60	52	60	60	60
活動指標②	教室展示会出品者数			322	350	320	350	350	350
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)			3,647	3,211	2,939	3,216	3,216	
	歳入(b)	受益者負担額							
		国県補助金等その他							
	(a) - (b) = 一般財源			3,647	3,211	2,939	3,216	3,216	
	正職員	従事者数(単位:人)			1.40	1.50	1.80	1.60	1.60
		人件費(c)			8,770	9,305	11,165	9,925	9,925
	トータルコスト(a)+(c)			12,417	12,516	14,104	13,141	13,141	
単位当たりコスト	計算式等 トータルコスト/受講者数			34	36	41	38	38	
備考(これまでの実績等)									

CHECK 評価	有効性 評価 事業は 有効か (指標に 出ない 効果)	成果は 向上して いるか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	説明	教養の向上を目的とする老人は多いが、受講者数はほぼ横ばいである。
		上位施策 への貢献 度はどう か	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
	効率性評価 経費削減は可能か	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる	説明	以前から経費削減している為、あまりできない。	
		説明	以前から経費削減している為、あまりできない。						
ACTION	具体的にどうする ことにより(手段)	当施設は数年後に閉館される為、現状の講座の開催を維持する。							
	どんなことが期待 できるか(効果)								
修正 行動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内 優先 度	C	説明	当施設は数年後に閉館される為、現状の講座の開催を維持する。
			4 廃止又は休止する	5 完了する					

平成25年度作成 平成24年度事務事業評価表

(作成日:平成25年6月6日)

ソフト事業(義務)		○		ソフト事業(任意)		内部管理・維持管理事業			
事務事業名	老人福祉センター管理運営事業								
担当課名	老人福祉センター				課長名	森本 良弘			
総合計画の位置付け	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
	施策	6	高齢者の生きがい対策の推進						
予算事業名	老人福祉センター管理運営事業費								
事業の開始年度	昭和	54	年度	事業の終了予定年度	平成	27	年度		
対象	市内に居住する60歳以上の人			事業の内容説明	後退機能の回復を高める為の温浴設備(大浴場)と磁気機器の設置。又、二階大広間ではカラオケ設備の設置、娯楽ホールでは囲碁・将棋などの娯楽器具を取り揃える事によりレクリエーションの充実を図っている。				
事業の目的	60歳以上の老人に対する健康の増進、教養の向上、後退機能の回復訓練等により老人が健康で明るい生活を営めるようにする福祉増進を目的とする。								
妥当性評価 この事業を行うことは妥当か	なぜ市が関与しているのか	2	1 義務	法律等(条例を除く)で義務付けられた事業					
			2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業					
			3 任意	市が関与することは妥当でない(縮小、廃止又は民営化すべき)事業					
	説明	老人福祉法第15条第5項の規定に基づき、市内老人に対し健康の増進、教養の向上の為の便宜を総合的に供与している。							
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 ある程度はある	3 克服できる範囲内	4 ほとんどない			
			説明	市内公共施設において無料の高齢者のレクリエーション施設が無くなり、健康で明るい生活を営む場を得ていただく機会が減少する。					
指標の推移	名称及び単位等			23年度	24(評価)年度		25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
成果指標	利用者数			98,257	100,000	96,119	100,000	100,000	100,000
活動指標①	団体利用者数			3,734	3,600	3,827	3,600	3,600	3,600
活動指標②	浴場入浴者数			94,523	96,400	92,292	96,400	96,400	96,400
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
	歳出(直接事業費)(a)			38,583	35,351	34,223	36,879	36,961	
	歳入(b)	受益者負担額							
		国県補助金等その他			694	63	218	220	220
	(a) - (b) = 一般財源			37,889	35,288	34,005	36,659	36,741	
	正職員	従事者数(単位:人)			2.60	3.30	4.00	3.60	3.60
		人件費(c)			16,286	20,470	24,812	22,331	22,331
	トータルコスト(a)+(c)			54,869	55,821	59,035	59,210	59,292	
単位当たりコスト	計算式等 トータルコスト/利用者数			0.56	0.56	0.61	0.59	0.59	
備考(これまでの実績等)									

PLAN 計画

DO 実施

CHECK 評価	有効性 評価 事業は有効か (指標に出ない効果)	成果は向上しているか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	施設自体は老朽化しているが、温浴施設や磁気機器の使用で後退機能の回復、利用者同士の交流で楽しく充実した生活を過ごせる場になっている。						
	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	健康の増進、レクリエーションの場として使用する老人が多く、利用者同士の交流で楽しく充実した生活を過ごせる機会を提供している。						
評価	効率性評価	2	1 全くできない	2 あまりできない	3 少しはできる	4 大きくできる			
	経費削減は可能か	説明	以前から経費節減している為、あまりできない。						
ACTION	具体的にどうすることにより(手段)	当施設は数年後に閉館される為、最低限の修繕にとどめる。							
	どんなことが期待できるか(効果)								
修正行動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながら続ける	3 縮小する	課内優先度	B		
		4 廃止又は休止する	5 完了する						
	説明	当施設は数年後に閉館される為、最低限の修繕にとどめる。							